

岡病防第 21号
平成24年 8月30日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

平成24年度病虫害発生予報第6号

平成24年 8月30日
岡 山 県

予 報 概 評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — — —	やや少 やや少 並 やや少 やや少 並
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	やや少 やや少 やや少 やや多 やや少
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	— — 並	やや多 やや多 やや多
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	やや多 並 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	やや少 並 やや少 やや多
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	— — —	やや少 やや少 やや少
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	やや多 並 少 やや少
キ ク	ナミハダニ	—	やや少

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は全体におおむね平年並である。

イ. 8月16～17日の巡回調査によると、南部地帯の穂いもちの発生圃場率は41.7%で、平年(56.9%)よりやや低かった。

ウ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査によると、発生圃場率は22.2%で平年(46.4%)より低く、発病程度の高い圃場は認められなかった。

イ. イネの茎数は平年並からやや多であり、やや助長する要因となる。

ウ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、発病をやや助長する要因となる。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は10.0%で平年(33.1%)より低く、発病程度の高い圃場は認められなかった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を助長する要因となる。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年より少なかったことから、本年度の種子の保菌率は平年より低かったと考えられる。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。本病は出穂期前後の高温と降雨が発病を助長する要因となる。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における 8 月 1 半旬～ 5 半旬の誘殺数は 1 頭で平年（2.5頭）より少なかった。
- イ. 8 月 16～17日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（7.6%）より低かった。
- ウ. 8 月 24日の季節予報によると、9 月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する要因となる。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8 月 24日の季節予報によると、9 月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8 月 24日の季節予報によると、9 月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を抑制する要因となる。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8 月 24日の季節予報によると、9 月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける 8 月 1 半旬～ 5 半旬の誘殺数は 989頭と平年（1174.3頭）並であった。

イ. 8 月 16～17日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は 7.5%で平年（6.8%）並であり、発生程度は軽微であった。

ウ. 8 月 24日の季節予報によると、9 月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する要因となる。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における 8 月 1 半旬～ 5 半旬の誘殺数は、アオクサカメムシは 2 頭で平年（5.5頭）より少なく、イチモンジカメムシは 5 頭で平年（19.2頭）より少なかった。

イ. 8 月 24日の季節予報によると、9 月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する要因となる。

2. 果樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発 生 量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は3頭で平年(30.3頭)より少なかった。

イ. 8月8日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は46.4%で平年(4.5%)より高く、一部で発生程度の高い圃場が認められた。

防除上の参考事項

ア. 平成24年度植物防疫情報第5号参照

(2) ハダニ類

予報内容

発 生 量 やや多

予報の根拠

ア. 8月13日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は46.4%で平年(51.4%)並であった。発生程度が中程度以上の圃場率は17.9%で平年(16.6%)並であった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する要因となる。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生時期 並

発 生 量 やや多

予報の根拠

ア. 第2世代成虫の推定50%抱卵日は8月27日で平年(8月27日)並であった。

イ. 7月17日の巡回調査では第2世代成虫の発生圃場率は5.4%で、平年(0.8%)よりやや高かった。

ウ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する要因となる。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発 生 量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)での発病葉率は63.3%で、平年(41.1%)より高かった。

イ. 8月13日の巡回調査によると、発生圃場率は27.3%で平年(11.6%)より高いが、発病程度は低い圃場が多かった。

ウ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(2) ベと病

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 8月13日の巡回調査によると、発生圃場率は90.9%で平年(79.2%)並であった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(3) さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月13日の巡回調査によると、発生圃場率は8.3%で平年(3.6%)より高いが、発病程度は低い圃場が多かった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月13日の巡回調査において、平年同様認めなかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24~27日の巡回調査によると、発生圃場率は37.5%で平年(42.8%)並であった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月24~27日の巡回調査によると、発生圃場率は62.5%で平年(73.5%)並であった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。高温は発病を助長する要因となるが、降水量が少ないと抑制する要因となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24~27日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(14.0%)並であった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月24~27日の巡回調査によると、発生圃場率は70.5%で平年(30.9%)より高かった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。高温は発病をやや抑制する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 本病はやや乾燥条件下で発生しやすく、雨の当たらない施設栽培で多発生しやすい。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24～27日の巡回調査では発生を認めず、平年(3.3%)並であった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を抑制する要因となる。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24～27日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24～27日の巡回調査によると発生圃場率は28.6%で、平年(22.7%)並であった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	やや多
	モザイク病	並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬～5半旬の飛来数は319頭で、平年(391.4頭)並であった。

イ. 8月24～27日の巡回調査によると、ダイコンのアブラムシ類発生圃場率は20.0%で平年(6.1%)よりやや高く、キャベツのアブラムシ類発生圃場率は14.3%で平年(9.7%)並であった。

ウ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の発生を助長する要因となる。

エ. 8月24～27日の巡回調査によると、ダイコンのモザイク病の発生圃場率は0%で平年(21.0%)より低かった。

(2) コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)における8月1半旬～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は0頭で、平年(5.0頭)より少なかった。

イ. 8月24～27日の巡回調査によると、ダイコン、キャベツでの発生は認

められず、発生圃場率は平年（ダイコン59.8%、キャベツ42.0%）より低かった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイ、キャベツ等での被害発生圃場率は5.3%で、平年（16.2%）より低かった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の発生を助長する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

4. 花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（26.5%）より低かった。

イ. 8月24日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の発生を助長する要因となる。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。